

海と朝日の美保関学園に近づく「近ミライ」

松江市立美保関中学校
教頭

1.はじめに

美保関中学校に赴任して3年目となりました。2年前、「2024海と朝日の美保関学園に見る教育のヒントとミライ」というかなり背伸びしたテーマで原稿を書き上げました。今回はそんな壮大なテーマではなく、まもなくやってくる「2031年問題」について考えてみたいと思います。

2.嵐の前の静けさ

この3年間、毎年、約20名の教職員と共に各学年30人前後の生徒と関わりながら過ごしてきました。美保関中学校の話をする、教科の先生が1人以上いて、部活動が4つあって、体育祭では2つの色が競い、文化祭では学年別の合唱や全校合唱を披露する…これが日常でした。しかし、この変わらない日常に大きな変化が訪れようとしています。それは生徒数がおよそ半減することです。5年後には、小学1年生から中学3年生まで、ほぼ学年15人前後で構成される美保関学園になります。我々は何を考え、何に備えていかなければならないのか、美保関学園というくくりで考えてみたいと思います。

3.できなくなること・できること

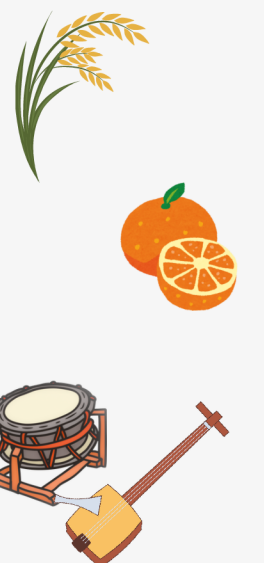
▲児童生徒数の半減により学園が見直さなければならないこと

- ・諸行事の見直し
運動会や体育祭、学習発表会や文化祭など、1人何役も受け持たねばならなくなります。目的の確認と学習効果の検証が必要になるでしょう。
- ・児童会や生徒会組織の見直し
組織の改編が必要になるでしょう。
- ・修学旅行の見直し
複数学年合同での隔年実施や、近隣の学校との合同実施を検討する必要があるでしょう。
- ・部活動（中学校）のありかたの見直し
単独での大会やコンクール出場が難しくなるでしょう。
- ・PTA組織の見直し
9年間で1回役に就く、というような約束事ではまわらなくなるでしょう。思い切った組織の改編、あり方を見直しが必要になるでしょう。



○学園としてできるかもしれないこと

- ・諸行事の共催
体育祭や文化祭（学習発表会）音楽会など小学校と共催できるかもしれません。
- ・学園こども会
児童会と生徒会を一体化し、活動を行うことができるかもしれません。
- ・地域を巻き込んだカリキュラム作り
現在でも小学校、中学校が地域の資源を活用して教育活動を進めていますが、さらに小中の一貫性をもたせていくことができると思います。
- ・諸会費の値下げ
児童・生徒数が少なくなるということは支出も減る可能性があります。PTA会費や地域の方に助けていただいている教育後援会費も値下げできるかもしれません。「勝手なことを言うな」とお叱りを受けそうですが（笑）



4.終わりに～ピンチをチャンスに～

私が37年前、初めて赴任した1校目の中学校、34年前赴任した2校目の中学校は、いずれものちに統合され、町から中学校が無くなりました。前任校も来年3月に63年の歴史に幕を下ろします。今、美保関で起こりつつある児童・生徒数が半減していくという課題に向かい合う事は、およそ30年前、小学校や中学校が統合した時に美保関町民の皆さんが体験したと重なる気がします。先のことを考えると不安も増します。しかし、学校というのは地域の宝であり、住民がその町で暮らす条件として、上位に存在するファクターでもあります。現在、学園では地域の農業や水産業の体験を学習活動に取り入れたり、校区に出かけて課題解決学習に取り組んだりしています。中学校では6月末に学校運営協議会委員と生徒との懇話会も実施しました。これらフットワークの良さ、アイデアが実現する早さ、地域の支援の力強さは、大規模校には無い美保関学園だからこそできるものだと思います。

ピンチをチャンスに！避けては通れない「2031年問題」に対し、是非、町民の皆さんと知恵を出し合い、力を合わせ学園教育を推進できればと思います。思いが溢れたのか、50分で作り上げた拙文ではありますが最後までお読みいただきありがとうございました。